

教 育 目 標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性を備えた生徒の育成を目指す。</li> <li>・ ものづくりとビジネスの実習・演習を通して技術を身に付け、社会に貢献できる生徒の育成を目指す。</li> </ul>			総合評 価	
運 営 方 針		「ものづくりとビジネスの出会いを通して人作り」をスローガンに、高等学校普通教育並びに工業科・商業科等に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせて、産業及び文化の進展に貢献し得る豊かな人間性と自立的な態度を育成するとともに、清新な気風に満ちた魅力ある校風の樹立を目指す。			B	
昨年度の成果と課題		本 年 度 の 重 点 目 標				
生徒指導事象が減り、生徒の多くが自らすすんで挨拶ができるようになった。また、生徒会活動が活発になり、生徒会が主体となり各学校行事の運営もすることができるようになった。反面、基礎学力の低下により希望する進路に進むことができない生徒がいる。 本年度は、生徒会活動をより一層充実させ、地域との連携に取り組みたい。また、基礎学力の向上に向けて新たな取組を行いたい。		(1) 基礎基本を定着させ、着実な学力の向上をめざす。	具 体 的 目 標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学年・科別のシラバス、評価の観点を示し、学ぶことの大切さを理解させ、基礎学力の定着を図る。</li> <li>・ 自己の目標を明確にし、その達成に向けた取組の一貫として資格や検定の受検を奨励する。</li> </ul>			
		(2) 集団や社会の一員としての自覚を高め、自己実現への積極的な態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人としての生き方やあり方について考えさせ、自己の進路を見つめさせる。</li> <li>・ 地域の一員として、挨拶運動や奉仕活動を実施する。</li> </ul>			
		(3) 生徒と心の通う人間関係を築き、基本的生活習慣や自己管理能力を培う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルールやマナーを身に付けさせ、規範意識の向上を図る。</li> <li>・ 一人ひとりの生徒が抱える課題を理解し、適切な支援を行う。</li> </ul>			
		(4) 安全教育の充実を図るとともに、安心して学校生活を送ることができるよう環境の整備に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活の中の様々な危険を予測させ、安全な行動をとらせることができるようにする。</li> </ul>			
評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
学習指導	わかる授業・学力をつける授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教員が当該教科・科目のシラバスを作成するとともに、これを用いて年度当初に生徒へ学習の目的や学習内容、評価方法を周知する。</li> <li>・ 各教員が、当該教科・科目において2、3学期当初に学習内容等を再度周知し確認する。</li> <li>・ 機械・ビジネスの専門教科で、シラバスを活用して、指導方法や教材の工夫、学習方法の把握の仕方などについて情報交換を行い、指導力の向上に努める。普通教科間でも同様の取り組みを行う。</li> <li>・ 1学期末に生徒による授業評価を行い、その結果を授業改善に生かす。</li> <li>・ 観点別評価に則した授業内容を研究し、アクティブラーニングを積極的に実践していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観点別評価の導入とともに、各教科でアクティブラーニングの実施及び学習の目標設定や評価方法の具体化を進めることができ、確実に進展している。</li> <li>・ 本校での奈良TIMEの今後の実施方法について、教員の意見を集約し検討していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修や意見交流を多く持ち、さらに発展させていきたい。</li> <li>・ 定時制の教育目標や生徒に実態を考え、共通理解された内容の授業を考えていきたい。</li> </ul>	アクティブラーニングの導入など、新しい教育実践を積極的に取り入れて、生徒自ら学ぶ意欲を高め、確かな学力の定着を図るべく、教員が日々研鑽・努力されていることに敬意を表します。また個々の生徒理解にきめ細かく対応されて、教育目標の達成に向けた教員の協働感が伝わります。次年度は新学習指導要領に対応する教育課程の策定に向けて準備をお願いしたい。
	個に応じた指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間考査後の成績を全職員で確認し、意見交換のもと個々の生徒の学習状況を把握・確認する。</li> <li>・ 常に学習の必要性を訴えかけるとともに、特に1、2学期末の成績不振者への指導において、普段の学習が成績に反映されることを十分に理解させながら指導する。</li> <li>・ 個々の生徒の興味関心や学習意欲を充実させるために、授業においては全体指導とともに、生徒各自の理解度に応じた課題を行う時間を設けるなど工夫する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成績の情報交換は、各成績会議、2学期中間考査後の意見交流会などを実施し、全教員で密に取り組むことができている。生徒に対する授業アンケートにおける「わかりやすい授業」や「ていねいな授業」に対し高い評価がそれを反映していると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の教育目標や生徒の実態を鑑みつつ、検討していきたい。</li> </ul>	
	資格・検定の取得に対する積極的な支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取得可能な検定や受験可能な資格の情報を広く生徒に提供し、資格取得への関心を高める。</li> <li>・ 生徒の実力を考慮しつつ、将来役に立つ資格や検定を絞り込み、資格の取得や検定合格に向け重点的に取り組ませる。また、これらの資格検定については、より多くの生徒に受験するように働きかける。</li> <li>・ 機械科、ビジネス科で取り組んでいる資格や検定について生徒の段階に応じて教師が呼びかけ、取得意欲を盛り上げていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検定に関しては、受験人数が少ない状況である。生徒の実態に十分配慮しつつ、検定への動機付けを行っていきたい。機械科では、計算技術検定を1年生で全員受験させ、また夏休み等で、資格に関係ある実習等を行っていただいている。</li> <li>・ 時間割変更等の調整で、ご無理を聞いていただき感謝します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の家庭環境や進路目標、また学力の到達度を考えながら、適切な受験への啓発をしていきたい。</li> </ul>	

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
生徒指導	<p>基本的生活習慣の確立と規範意識の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻・欠席防止を徹底し、基本的生活習慣の確立を図る。（昨年度の15%減）</li> <li>挨拶の励行、時間厳守及び自己管理の徹底し規範意識の向上を目指す。</li> <li>各授業や学校行事等に臨む際の姿勢や態度などにおける基本的なマナーの向上を図る。</li> <li>交通安全教室及び巡視指導等を通して、通学時の安全確保に努めるとともに、交通マナーの向上を図る。</li> <li>月1回生徒にプリント（たばこのお話）を配布し、たばこの害に関する意識を向上させるとともに、薬物乱用防止教室をとおして薬物の恐ろしさを認識させる。</li> <li>個別面談や家庭訪問で把握した生徒の状況を、教職員間での共有に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席については減少したが遅刻については減少に至っていない。</li> <li>生徒会の協力もあり、挨拶する習慣が年々定着するようになってきた。</li> <li>集会時における姿勢や態度等の基本的なマナーや通学時のマナーにおいてはほぼ達成できた。</li> <li>月一回生徒向けに配布しているチラシ「たばこの話」により、喫煙における健康被害の啓発を行った。</li> <li>家庭訪問で得た情報を生徒の状況として資料作成し情報共有を図りながら教職員間の共通理解をとりながら指導できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4年間の指導を通して学校のルール、時間厳守、挨拶等の社会のきまりをしっかり身に付けさせたい。また、授業や学校生活での関わりの中で生徒の少しの変化を観察し、継続して指導していきたいと思う。</li> </ul>	<p>日頃の取組によりほとんどの生徒があいさつができるようになってきた。生徒会活動の活性化は、生徒の帰属意識を高め活力ある学校生活を導くと思います。これからも生徒が主体的に取り組む環境づくりに努力されることを期待します。</p>
	<p>生徒会活動の活性化及び部活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会役員の主体的活動や生徒会行事の活性化を図り、充実した生徒会活動に努める。</li> <li>部活動の勧誘を積極的に行い、加入率を昨年度より上回るようにする。（昨年度の10%増）</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会の打ち合わせをこまめに実施し意志疎通を図った。特に登校時における挨拶運動は他の生徒に刺激を与え、少しではあるが自主的に挨拶が出来るようになった。</li> <li>部活動においては制約された時間の中で活動を行い陸上部、バドミントン部においては全国・近畿大会に出場し活躍してくれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の主体性や自主性を高めるような生徒会活動、部活動の在り方について更に検討していきたい。</li> </ul>	
人権文化	<p>人権学習LHRの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の人権感覚を高めるために、人権の視点を大切にしたものの方を深めるための人権教育HRの充実を図る。</li> <li>様々なテーマ（「部落問題」「在日外国人問題」「障害者問題」「性的少数者の人権」等）を4年間で実施できるように計画を立案する。また、必要に応じて、そのための職員研修を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一学期には学年ごとのテーマ、第二学期には共通のテーマで人権学習LHRを展開した。それぞれの学習で、人権の視点であったり、問題意識をもたせることができた。</li> <li>職員研修として第二学期に外部講師による人権講演会を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりの理解に努め、教材・資料を活用し、また様々な機会自己研鑽に努めるのが望ましい。生徒向けの講演会については講師の人選に配慮を要する。</li> </ul>	<p>職員研修を実施するとともに、日頃より本校生徒に対して人権啓発を行っている。「生活体験発表会」や「人権作文発表会」は生徒間の仲間意識や自尊感情を高める絶大な教育効果が認められます。これからも生徒が自己の体験談を積極的に発信でき、他人を思いやる資質の向上を図れる取組、舞台づくりを期待します。</p>
	<p>校内生活体験発表会に向けた取組の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ学校で学びあうなかまとして、なかまの思いを共感、共有することで生徒個々の自尊感情を高め、自己実現への意識を高める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏期休業中に生活体験作文または人権作文を課した。各クラスの代表が校内で発表し、さらにその中から学校代表を各科から2名選出、県生活体験発表会で発表した。担任教員の指導もあり、ほとんどの生徒が作文を書いていた。中には問題意識を持って定時制高校で高校生活を送っている生徒もいる。作文を書くことや発表が、生徒自身の成長の機会になるのが望ましい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内発表会から県大会までの期間が短く、十分な取組が行えていない。作文を書かせる時期をできる限り早める必要がある。また、生徒自身に問題意識を持たせる指導も必要である。</li> </ul>	
	<p>特別支援体制の共通理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配慮を要する生徒の把握に努め、生徒、保護者、教職員の共通理解の上、支援が可能となるような体制を構築する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育コーディネーターや教員による中学校訪問、中学校から送られてきた個別の支援計画、該当生徒の校内での様子の聞き取り、保護者との面談などを行った。以前よりも支援体制が整い、共通理解も図れ、一定の成果が得られた。次年度も継続できるように、関わりを持つ教員同士の引き継ぎが不可欠である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりの理解の上に様々な取組があり、生徒を中心に据えた体制作りが重要であることを教員全体で認識しなければならない。</li> </ul>	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
進路指導	生徒理解(1～4年)と進路学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自己点検カード(1年)」と「進路希望調査(1～4年)」等を利用して生徒理解に努め、全教員で個に応じた進路指導が行えるようにするとともに、各学年に応じた進路HRを実施する。</li> <li>生徒自身が自己の進路を考える上で参考となるよう、進路学習会を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>4年生は、「調査」を利用することで生徒の進路決定に役立てることができた。1～3年は進路講演会を実施することにより、進路の意識を高めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種の調査結果を進路指導に生かせるように取り組んでいきたい。</li> </ul>	進路実現をめざして4年間の系統的な指導体制が確立されているように思います。これからも生徒の実態に即して、なかまと共に支え合う集団づくり、生徒の居場所づくりのために積極的に取組・努力されることを期待します。
	4年生の進路決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職・・・より効果的な指導を行い、内定率を高める。(就職相談、企業訪問、応募前職場見学、各関係機関との連携、就職試験対策、事務処理等)</li> <li>進学・・・将来の職業選択に繋がるような指導、情報を提供する。(進学相談、学校訪問、学校案内・募集要項の取り寄せ、学校見学・体験の紹介、入試対策、事務処理等)</li> <li>進路実現のため、担任と保護者との連携強化に努める。</li> </ul>	B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>応募前職場見学や就職試験対策などをおこないハローワークを通じた一次応募で合格することができた。</li> <li>希望する短期大学・専門学校等に進学することができた。</li> <li>担任と保護者の連携がとることができ、多くの生徒の進路先を決定することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望調査や進路講演会等の取り組みが実施ができるように努力していきたい。</li> <li>担任と連携を密にし、必要な進路情報を提供していく。</li> </ul>	
	各種奨学金の申請及び事務処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>「奈良県高等学校等奨学金」「奈良県高校生等奨学給付金」「日本学生支援機構奨学金(給付・貸与)」「石澤奨学金」などの申請や事務処理を適切に行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各奨学金の事務処理等を適切に行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の家庭事情については変化しやすいので、担任と連携し確認を丁寧にしていく必要がある。</li> </ul>	
環境 保健体育	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツテストを通じて、生徒の運動能力を把握し、その課題を明確にし年齢層に応じた体力の向上の取組を行い、運動に興味を持たせるよう工夫する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツテストの参加率は97%を超え生徒一人一人の運動能力を把握することが出来た。体力向上については縄跳びや筋トレを導入したので3学期の持久走において成果が現れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各生徒の運動能力が把握出来、縄跳びや筋トレの成果が出た。</li> </ul>	少ない時間で効果的な取組により、運動能力が向上したことはすばらしい。保護者アンケートより、検診結果を生徒から知らされていない保護者が3割近くいることから、周知方法等工夫する必要がある。また、安全教育の充実に取り組みでもらいたい。
	健康保持増進と安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期健康診断や各種検診を計画的に実施し、生徒個人の健康状態を把握し各検診の受診率93%以上を目指し家庭との連携を密にする。</li> <li>防災教育を充実させ避難訓練を行い自分自身の身の守り方等の意識付けを行う。</li> </ul>	B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の健康診断受診率は93.6%で昨年より受診率は上がった。ただ受診勧告書を面談で保護者に配布するものの受診率はかなり低かった。また、スクールカウンセラー事業の確保ができたので希望生徒には受診を促すよう指導する。</li> <li>今年度避難訓練を夜間で実施し生徒も自主的に取り組んでくれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受診勧告書を保護者に渡し受診を勧めるとともに健康管理の重要生を促す。</li> <li>防災教育を充実させ自分自身の身の守り方の意識付けを行う。</li> </ul>	
	環境整備と環境美化への意識向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>随時、施設の安全点検を行い、環境整備に努める。</li> <li>環境美化への意識を高めるため、各クラスの環境委員を中心に自主的な清掃活動に取り組ませる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体の環境美化状況は、HR等での指導により、教室や廊下等のゴミはかなり減ったように感じる。その他清掃活動については汚れに気付かれた教員が自主的にきれいにすることが望ましい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境整備についてはクラス運営の一環として適宜行うよう指導する。</li> </ul>	

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
機械科	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的、基礎的な知識・技能の確実なる習得</li> <li>ものづくりへの興味・関心の育成</li> <li>各種検定試験への支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>座学で学習した内容をしっかりと理解し、その知識を用いて加工する手順や方法を考え、作品をつくり上げる。</li> <li>作業後のレポート作成により実習内容の再確認をおこない、学習内容の定着を確実にする。</li> <li>機械科に関する各種検定試験について、放課後及び長期休業期間を利用して支援する。</li> <li>作品製作に重点を置くことにより、完成の喜びを味わわせ、ものづくりの楽しさを認識させる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年が進むごとに、座学で学習した内容を理解し、その知識を用いて加工手順や方法を考えられるようになってきている。落ち着いた取り組み姿勢も身に付いてきており、安全に意欲的に取り組むことができてきている。1年生にも、服装やレポート提出についてしっかりと習慣付けができてきた。警報のため中止になった検定もあったが、12名の生徒が取得に向け自主的に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に4年生においては、学んできたことを活用して作業工程や使用工具等を自ら考え作業していく場面を更に増やしていきたい。進路実現に向けて、必要な資格取得についてアドバイスをしていく。</li> </ul>	<p>課題研究において高度な取組がされている。機械科で学んだことを生かした進路選択ができるようお願いしたい。</p>
ビジネス科	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本を定着できるための授業方法の工夫</li> <li>各種検定試験（希望者）への継続的な支援</li> <li>新しい教育課程や評価制度の研修を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTなどを活用、授業展開の工夫改善をおこなう。</li> <li>授業内容を通して資格取得に興味・関心を持たせ、受験者を増やせるようにする。</li> <li>各種検定試験受験希望者に対して、放課後の補習や部活動を通じて継続的な支援を行う。</li> <li>教員間の情報交換を年2回以上行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報機器の活用等を行い、生徒の理解を深めることができた。</li> <li>新教育課程や評価方法について意識を深めることができた。</li> <li>部活動等で検定試験対応などをおこなったが、生徒の活動を活発にすることができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新教育課程や評価方法について具体的な話し合いを行い、少しずつ具体化していく話し合いをしていく。</li> <li>検定試験受験者を増やすために生徒の意識を高める工夫をおこなう。</li> </ul>	<p>商業関係の科目の充実と共に情報機器の活用・モラル教育を積極的に行っている。社会に出た後役に立つ検定受験者増加に取り組んでもらいたい。</p>
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時制高校の生徒としての基本的な生活習慣を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己点検シートの記入により自己理解(学習面・生活面)をさせる。</li> <li>年度当初の個人面談、家庭訪問、中学校訪問等により、積極的に生徒理解に努め、さまざまな場が学習の機会であることに気付かせる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己点検シートの記入、中学校訪問、個人面談により生徒理解を図り、家庭訪問、三者懇談等により保護者(家庭)との連携に努めた。</li> <li>遅刻・欠席が目立つ生徒、人との関わりが苦手な生徒が若干名存在するが、ほとんどの生徒は基本的な生活習慣が次第に身につく、定時制高校での高校生活にも慣れてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりと関わる機会をできる限り多くもち、さらなる生徒理解に努める。</li> <li>「働きながら学ぶ」という定時制高校での生活を実践させ、自らの将来について考えさせる。</li> </ul>	<p>高校生活に慣れていない生徒に対し、きめ細やかな指導をしている。課題のある生徒に対し、関係部署と連携して取り組んでもらいたい。</p>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の確立</li> <li>学習意欲の向上</li> <li>学校生活の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活と仕事を両立させ、欠席・遅刻を減らすよう指導する。</li> <li>挨拶の励行やマナーの向上について継続的に指導する。</li> <li>基礎学力を定着させるため、きめ細かい指導を行う。</li> <li>専門学科の特色を活かし、実習、技能講座、検定試験等に積極的に取り組むよう指導する。</li> <li>学校行事、生徒会活動、部活動等に積極的に取り組むよう指導する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席・遅刻の数は、昨年度より減少した。</li> <li>挨拶の励行について、一定の成果が得られた。</li> <li>教科担当者の協力を得て、きめ細かい学習指導を行った。</li> <li>資格取得や検定試験合格等にはあまり結びついていない。</li> <li>学校行事等には、積極的に取り組めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習、技能講座、検定試験等に積極的に取り組むよう指導する。</li> <li>学校の中心学年であることを自覚させ、学校生活を充実させるよう指導する。</li> </ul>	<p>今後の学校の中心となる生徒を多く育てた。将来の進路を見据えて、しっかりと進路研究の指導を行ってもらいたい。</p>

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路実現を目指し、基本的な生活習慣や自己管理能力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度進路選択を迎えることを自覚し、社会人として必要な基本的な生活習慣、マナー、モラルの定着を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着いた学校生活を送ることができるようになってきており、それに伴い人間関係の持ち方にも成長が見られるようになってきた。まだまだ遅刻欠席の多い生徒もおり、基本的な生活習慣の確立、社会人としてのマナーの定着など、自立に向けた指導を続けていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導部と協力し、社会人としてのこれからの人生を考えさせ、進路実現が必要であるということを実感させる。</li> </ul>	<p>多くの課題を持った生徒に対しきめ細やかな指導ができています。来年に向けてさらなる指導をお願いしたい。</p>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の進路実現に向けて、適切な指導が行えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒各自の将来設計を考えさせることができるように、日常の交流を通じて適切なアドバイスを行えるようにする。</li> <li>HR活動を通じて、就職や進学等に関する情報を生徒に知らせるようにする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒の進路先を決めることができた。進学においては、希望する学校に合格することができた。また、就職においては、学校斡旋やアルバイト企業での継続採用などで就職先を確保することができた。</li> <li>進路未決定者をより少なくするために、1年生より系統立てた進路指導を行い、将来像をしっかりと考えさせ、自己のキャリアデザインを描けるようにする必要がある。</li> <li>就職試験等の対策として、筆記試験や適性検査などの指導を充実させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査書の校務支援システム利用による発行や書式の変更に向けて、関係分掌と連携して研修を行っていく必要がある。</li> <li>生徒との関係を密にし、HR活動や面談等を通して、必要なアドバイスや情報を提供していく。</li> <li>長期休業やHRの時間を使用し、試験対策を充実させる。</li> </ul>	<p>ほぼ全員の卒業後の進路の決定することができた。入学後早い時期からのキャリア指導について研究してもらいたい。</p>